

## 第 28 回学術シンポジウム 発表要旨

### 日本学生习得“给”及相关句式的偏误研究

田润润（山东大学） 陈贤德（北京语言大学）

摘要：“给”因意义的多样性和用法的复杂性成为了日本学生学习汉语的难点之一。基于 HSK 动态作文语料库和全球汉语中介语语料库，从“语序”“遗漏”“误加”“混淆”“字形”以及“‘给’的相关句式”等多个层面对“给”的偏误进行归类，并从“目的语的过渡泛化”“母语负迁移”“教学缺失”等方面对偏误的成因进行解释，最后提出相应的教学建议。

关键词：日本学生；“给”；习得；偏误

### 汉日双语的空间识解范式研究

洪安澜

（闽南师范大学）

汉日双语关于“空间”的研究往往忽略了研究对象本身的差异。语言所反映的是说话人的空间认知，不同说话人因生活经验不同，空间识解的范式也不尽相同，其中差异在对比语言学的研究中尤为显著。例如在描述复数事物的空间方位时，日语母语者偏爱使用并列主语的存在句（单词层面的并列关系），而汉语母语者偏爱使用分句并列的“在”字句或“是”字句（句子层面的并列关系）。这一表征差异很可能表明日语母语者将所有观察对象置于同一空间内进行一轮识解，而汉语母语者则将观察对象置于不同的空间之中，进行若干轮识解。进而可以说，日语反映的是连贯且同质的空间，而汉语反映的是离散而异质的空间。

### 武藤文库所藏早期北京官话资料概述及研究展望

趙 葵欣

（大東文化大学外国語学部）

要旨 本発表は長崎大学武藤文庫所蔵の明治初期の北京官話資料の紹介と概述をし、その北京官話研究や、外国語としての中国語教育研究に対する価値と可能性を検討する。武藤文庫の早期北京官話の資料の中で以下の 2 種類を取り上げ、その内容や様々な記号、関連事情の解明に努める：①御幡雅文の北京官話教科書の抄本 3 種：『紹古先生口授京話』（2 冊）・『官話 志白問答』（2 冊）・『官話 今古奇観』（2 冊）。②イギリスの John Bunyan の宗教小説 *The Pilgrim's Progress* の官話訳本『天路歷程官話』2 種と、続編の『續天路歷程官話』1 種。抄本は作成時期が 1881 年以前

であり、編著者が旗人で、十分なデータ量があるという 3 つの特徴が見られ、北京官話や北京語の通時的な考察に貴重な資料だと思われる。一方で 19 世紀末の英語小説の官話訳本は、現代中国語の「欧化語法」との関連性についても考察する価値がある。よっていくつかの研究例を試す。

キーワード：武藤文庫 19 世紀の北京官話 中国語教科書 明治初期 中国語教育史

(口頭発表は中国語で行います。)

## 学習語彙と言語能力

沈 国威 先生

(浙江工商大学東亜研究院特聘教授、関西大学名誉教授)

日常生活に用いる語彙と違って、いわゆる「学習語彙」は、学校教育の場で現代社会を生きる知識を学習するのに必須の語彙群であり、意識的に習得しなければならない。学習語彙の質と量は、外国語を含め言語能力の発達に密接な関係がある。今回の講演では近代における日中語彙交流の視点から学習語彙の形成史を押さえた上で、その特質と習得法について考えたいと思う。